カネコトタテグモの雄について

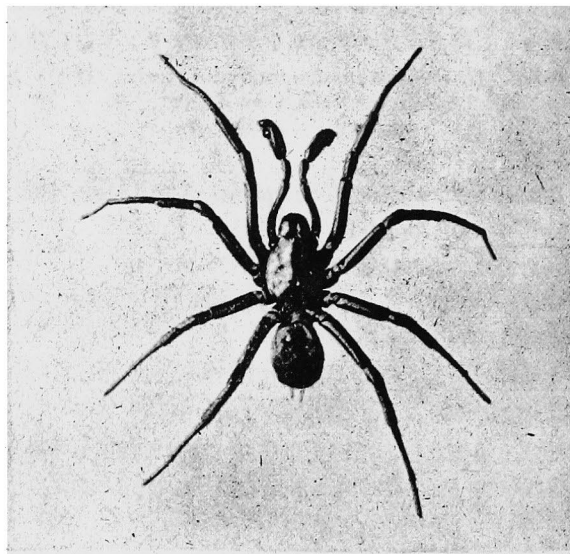
山 本 源 三 郎

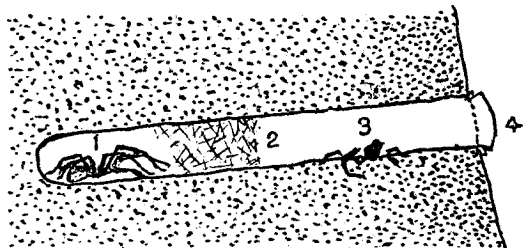
濱横市中區麥田町1ノ24

カネコトタテグモ *Acatlyma roretzii* L. Koch については，その住居に兩開きの扉を持つといふ習性上の著しい特徴によつて關心を持たれ，既に本誌その他に於て種々の報告がなされてゐる。このたび横濱市に於て採集した本種の成雄について，その採集に當つて觀察した事實と，それに基く習性の一端とを玆に報告する。

第 1 圖　カネコトタテグモの成雄

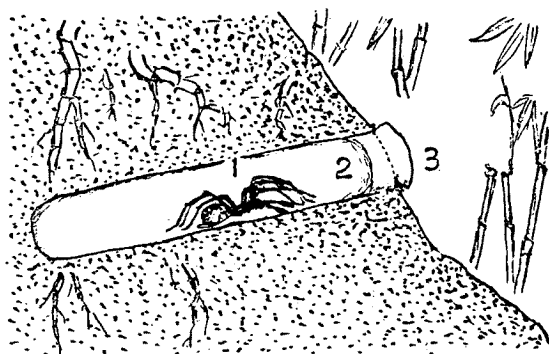
第1回の採集

第1回の採集は昭和17年11月19日であつた。場所は妙香寺臺と呼ばれる高臺で，横濱山手の一部である。この高臺の南面した赤土の崖にカネコトタテグモが棲んでゐるのを見附けてから，私は屢々其處へ行つて見た。しかし，見るものは悉く雌ばかりであつた。その日，いつもの樣に崖を見てゐると，道から一米半位の高さの處に，トタテグモの住居の內壁と思はれる白い膜が少し露出してゐるのに氣がついた(崖の土が崩れたために住居の片側が現はれて了つたものらしい)。近寄つて見ると確にトタテグモの住居で，しかもその膜は少し破れてゐて，そこから黑色の脫皮殼がはみ出てゐる。手に取つて見るとカネコトタテグモの脫皮殼に

違ひない。念の爲めもう一度その邊りをよく見るとすぐ傍に兩開きの扉があつた。そこで兎に角掘つて見ようと思つて，その住居の破れ目から奥の方へと掘り進んで行つた。するとやがて坑の內部一面に張り廻らされた絲に出會つた。この奥にクモが潜んでゐるのだなと考へて，用心深くその絲を取り除くと，遂にクモの黑い步脚が見えた。それでもまだ雄だとは氣附かない。ところが管壜に追ひ込んで見ると，色は眞黑で背甲は低く，步脚が妙に細長くて觸肢は先端が特に太くなつてゐる。一見して今迄見てゐた雌とは大へん違ふ。その時初めてこれはカネコトタテグモの成雄ではないかと氣附いた。そして嘗て採集したキシノウヘトタテグモ *Kishinouyeus typicus* Kishida の成雄がやはりその成雌と著しく異つた低平な背甲と細長い步脚を有してゐた事を思ひ出して，これは確にカネコトタテグモの成雄に違ひないとの考へを强くした。雌に較べて，背甲が低平で步脚が細長い事はトタテグモの成雄に共通な特徵であらうと思ふ。

ここで，この成雄の居つた住居の狀況について，改めて述べて置き度いと思ふ（第2圖參照)。先づその兩開きの扉は，私がそれを雌の住居だと思ひ込んだやうに，一見して雌の住居の扉と變りが無かつた。なほ雄の住居がその外觀及び構造上雌のそれと何等變りがないといふ事は，第2回目の成雄採集によつて一層深く確信するに至つた。次にこの住居の大きさは，口徑（坑の直徑）1 cm.，深さ約 10cm であつた。絲の張られてゐた場所は住居の中程からで，一番奥は丁度成雄が入れる丈けの空間となつてゐた。

第 2 圖　1. 成雄　2. 張り廻らされた絲　3. 脫皮殼が現はれて居た場所　4. 扉

II　第 2 回 の 採 集

第2の成雄採集は同年12月2日であつた。場所は同じ崖であるが，最初のとは大分離れた處である。崖の下の方で二つ許り掘つてみたが何れも雌であつたので，目を轉じて崖の上方に叢生する笹の間の地面を見た時，そこに例によつて巧妙な迷彩の施された兩開きの扉があるのを見出した。扉の大きさから判斷して成體には違ひないがこれも又雌だらうとは思つたが　一應調べて見ようと

考へ直して先づその扉をそつと開いてみた。すると思ひ掛けなく扉のすぐうしろには薄い膜が張られてゐた（第3圖）。これは脱皮だなとすぐ氣附いた。といふのは前にキシノウヘトタテグモの脱皮（それは雌であつたが）を觀察した時，やはり戸蓋のすぐ下に同樣の薄膜が作られてゐたからである。そこで注意深くその薄膜を取り除いて中を覗くと步脚と觸肢が見えた。觸肢の先端が太いかどうかと思つてゐる内に，クモはさつと奥へ逃げ込んで了つた。掘り出して見るとこれが成雄であつた。

第 3 圖　1. 成雄　2. 薄膜　3. 扉

この住居には第1回の時の如き坑の內部に張り廻らされた絲が無かつたが，その代りに扉のすぐ後ろに薄膜があつた。住居の大きさは口徑1 cm. 深さ約6 cm. で，その口徑が前回のと全く同じであつたことは注目すべきで事實だと思ふ。深さが前回のに較べて相當淺いのは，この住居が笹の根の多い處に作られてゐた爲めであらう。元來住居の深さは，障碍さへなければその本來の深さに迄達するが（カネコトタテグモの成雌に於ては 10cm. 以上のものが多く，土の柔い處では 15cm. に達するものも稀でない），途中で障碍物に出會へば多少淺くてもそこで住居を完成させて了ふと思はれるから，住居の深淺は一定しないと考へて差支へないと思ふ。

兩開きの扉については第二回目のも第一回目のと同樣，外觀及び構造に於て雌のそれと異る點を見出し得なかつた。今度は始めからその積りで扉を含む住居の前半部を採つて置いたので，後に詳しく調べることが出來た。それ故この點には確信を持つてゐる。

なほ，第2回目には脱皮殼が見附からなかつたが，これは脱皮殼を住居の外へ捨てるのが正常な行動と考へられるから，住居內に殘つてゐなかつたのが當然であらうと思ふ（正常な行動といふのは，キシノウヘトタテグモが脱皮の時明らかに住居內で脱皮して，脱皮殼を住居の外に投げ出したことから推量した

ものである。第1回の採集の時 脱皮殻が住居の破れ目から押し出されてゐたのは稍異常な場合と思はれる。即ち扉を開けて捨てる代りに途中の穴から外へ捨てたのであらう)。

III 習性について

以上2回に亘る採集から得た事實を綜合することによつて，未だ不完全ではあるがカネコトタテグモの雄の習性について，その一端を知ることが出來た。

先づ第一にカネコトタテグモの雄が，完全な成體に達する迄は雌と同様の住居に棲んでゐるといふことが判る。尤も，成體に達する迄は雄も雌と同様の生活をするといふことはトタテグモに限らず，全ての蜘蛛に共通な習性であらうと思ふ。例へばヒラタグモ *Uroctea compactilis* L. Koch に於て，外觀上何等雌と變りがない天幕狀の住居であつても，覗いて見たり餌で誘ひ出して見たりすると，亞成體の雄が入つてゐることがあり，更に之を繼續的に觀察してゐると 何時かはそこに居なくなつて了ふ（即ち成體となつて住居を離れる）ものである。キシノウヘトタテグモに於ても同じ様な事實を觀察した(昭和17年8月8日)。それはやはり雌だと計り思つてゐた一個の住居（それ迄何度も戸蓋を開けて見て雌だときめ込んでゐたもの）から偶然成雄を得たのであつた。勿論その時これは雌の住居に入り込んだ雄ではないかといふ疑ひが當然起つたが，住居內を徹底的に調べても遂に雌は現はれなかつた。即ち，これは今回私がカネコトタテグモの成雄を採集したのと同じ狀態で，まだ徘徊に出掛けない成雄であつた譯である。

次に成雄となる最後の脱皮は次の様な順序で行はれたのであらうと推察する。亞成體の雄（これはまだ見てゐない）は一定の時期が來ると住居の中で脱皮を始める。脱皮が終つて少く經つと扉を開いて殼を外に捨てる。そして奥へ戻つて自分の體が入る丈けの空間を殘してその前方へ絲を縱横に張り廻らす。（これは脱皮後體が脆弱な爲めに，外敵を防ぐ意味でそのやうな絲を張り廻すものと考へる。キシノウヘトタテグモの脱皮を見ると，脱皮直後は全體白色で丁度蠟細工といつた様な感じである。ついで青味がさし，次第に黑くなつて，一晝夜以內には完全な體色となる。そして充分色が現はれる迄は動作も緩慢であり，又甚だ脆弱に見える)。かうして暫く奥に靜止してゐると，やがて體色も充分現はれ體は硬くなる。さうなるともう活動が出來るから張つた絲を取拂つて了ふ。しかし，まだ雌を求めて徘徊に出ることや，敵に襲はれることを

欲せず，用心の爲めに扉の後ろへ薄い膜を張つて更に休息する。

第1回採集の成雄は，まだこの綵を取拂はぬ狀態に在つたものであらう。採つて歸つてから，管壜の中へ丁度第2回目の時見たやうな薄膜をコルク栓の後へ作つた。第2回目のは既に綵を取拂ひ，扉の後へ薄膜を作つて休息してゐた狀態のものであつたと思ふ。

さて，私の採集は以上の樣な狀態にあつたものを得たために，成雄が住居を離れる迄の行動に就てはその概略を知る事が出來たのであるが，その後の行動，即ち何時住居を離れて徘徊に出るか，どういふ方法で雌の住居乃至は雌を探しあてるか，何處で，どんな形式で雌との交際を成し遂げるか，といふやうな成雄の習性上大切な諸問題は遺憾乍ら解決するには至らなかつた。これ等の問題は單に成雄の習性ばかりでなく，カネコトタテグモ全體の習性を明らかにするためにも大切な役割をもつものであるから，今後充分に觀察する必要があらう。

擱筆するに當り，種々の御配慮を賜はつた關口晃一氏に對し衷心より御禮を申上げる。

オニグモの移動時刻に就いて

岡　本　大　二　郎

朝鮮總督府農事試驗場

本報は朝鮮水原に於ける昭和17年夏の觀察である。

オニグモ *Araneus ventricosus* (L. Koch) は人家附近に多いのと體が大きいのとで，蜘蛛の中では最も普通に知られてゐる。コガネグモ科 Argiopidae に屬するもので，本邦各地（樺太・北海道・本州・四國・九州・臺灣・朝鮮）・滿洲・支那に廣く分布してゐる。夏期（水原附近では6月下旬乃至9月中旬）成熟した♀が軒端・電線・樹間等に大きな巣を張り，日中は隱れてゐるが，毎日夕方になると悠々と現れ巣の眞中にドツカと納り込む。相當甚しい夕立が出現當時降つてゐても常と變りなく現れるし，出現後降り始めても平然と巣に止つてゐて，降雨は此蜘蛛の出現に何等影響を及ぼさない樣である。♂は軒端等に